

## 2013年国際学術シンポジウムの趣旨

2013年の国際シンポジウムは、「磁場としての東アジア」を共通テーマに掲げ、秋学期期間中に4回にわたる連続シンポジウムの形式で開催する。今年は国際シンポジウムの記念すべきスタートの年である。本シンポジウムの全体を通して、近現代の「歴史」に焦点があてられる。

東アジアはそれ自身で完結するものではなく、アメリカをはじめとする世界各国との深い関係のなかで存立した。また、経済成長のような一分野の観点だけから、東アジアを語ることもできない。一国的視野を超え、政治や社会、文化を含む広範で複雑な関係をあらわしている歴史的条件を越境的にさぐって、問題を根底から問い直すことが求められている。様々な集団や個人が行き交い、時には地域や国家のレベルにいたる接近と反発、協同・競合・対立、そして生成と消滅の舞台となった「東アジア」という磁場に注目し、その概念をも相対化していくことを目指す。

第1回(9月21日(土)～22日(日))は、「ミッション高等教育史の可能性」と題する催しである。アジア各地における研究の歩みと現状を考え、1920年代のアメリカにおける超党派「東洋の七つの女子大学」支援運動と地元(インド・中国・日本)の動向を素材とした討論を行い、戦時同志社史の再考を図る。人文研は、新島襄や同志社に関わる数多くの研究成果を挙げてきたが、今後必要なのは、「世界史の中の同志社史」研究であり、その足がかりを得ることを目指した企画でもある。

第2回(10月26日(土))は、「植民地主義のなかの帝国」と題し、日本研究を担う韓国の若手研究者を招聘し、「韓国における日本研究」をめぐる議論する。韓国での日本研究、とりわけ近現代史研究は、植民地主義と脱植民地化を基本的な枠組みとしている。かかる点を、近代化と国民国家の成立が軸になる「日本における日本研究」と重ね合わせながら、具体的なテーマや研究分野にそくして議論し、日本を植民地主義において考察する際の諸課題を明らかにする。

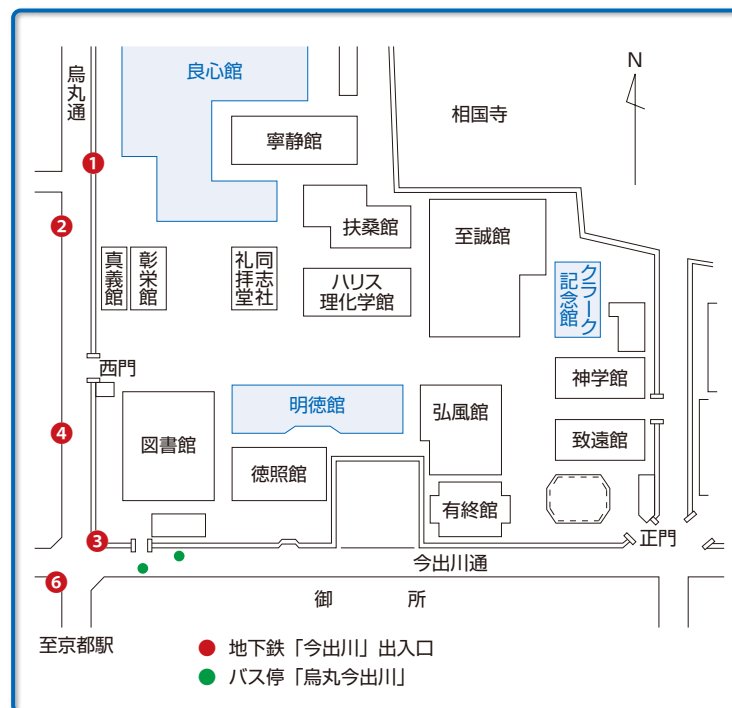
第3回(11月3日(日))は、「日本の『戦後史』と東アジア」と題し、いま問題になっている日本の「戦後史」を、一国的ではなく、東アジアというより大きな視座から相互連関的にとらえ直して、戦後日本の知られざる姿を浮かび上がらせていくことを目的とする。具体的には、中国系新移民・引揚者・復帰前後沖縄の経済構想・失対労働者といったテーマが論じられる。

第4回(11月9日(土))は、「北に渡った言語学者・<sup>キムスギョン</sup>金壽卿(1918-2000)の再照明」と題し、戦前に京城帝国大学・東京帝国大学に学んで1946年に北朝鮮へと渡り、朝鮮民主主義人民共和国の朝鮮語学の基礎をつくった一言語学者に焦点を当てる。金壽卿の生涯と学問を多面的に辿りながら、同国の言語をめぐる文化・政治のみならず、南北朝鮮の分断状況、日本・旧ソ連・中国との関係などを新しい視点から明らかにする。

以上のように、国際的な討論を通じた研究視角や手法の再構築、あるいは国家・地域間比較や相互関係の考察による、近現代日本・東アジア研究の進展をめざす。人文科学研究所70周年を目前に控えての本企画を端緒とし、活発で持続的な議論が巻きおこり、あらたなシンポジウムへとつながることを願っている。

## アクセス

### 同志社大学今出川キャンパス案内図



### 最寄駅

### 京都市営地下鉄烏丸線 「今出川」駅へは

J	R	「京都」駅から地下鉄烏丸線に乗換
京阪・叡電		「出町柳」駅より西へ徒歩15分 または市バス201号、203号で約5分
近鉄		「竹田」駅から地下鉄烏丸線に乗換
阪急		「烏丸」駅から地下鉄烏丸線に乗換

会場へは公共交通機関をご利用ください

【駐車場はありませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください】

Doshisha University  
Institute for Study of Humanities and Social Sciences  
International Symposium

“East Asia as a Magnetic Field”

同志社大学人文科学研究所  
国際学術シンポジウム

## 磁場としての東アジア



開催日:2013年 9月21日(土)・22日(日)

10月26日(土)

11月 3日(日)

11月 9日(土)

会 場:同志社大学今出川キャンパス

入場無料/申込不要

主催・お問合せ



同志社大学人文科学研究所

Tel:075-251-3940

E-mail:ji-jimbun@mail.doshisha.ac.jp

http://jinbun.doshisha.ac.jp/

## 人文科学研究所国際学術シンポジウムの開催

シンポジウム実行委員長 庄司俊作

### 新たな挑戦

人文科学研究所は、同志社大学の共同研究の拠点として長い歴史を刻み、共同研究でも専任教員の個人研究でも数多くの研究業績を残し、大学内外から高い評価を得てきた。かかる歴史を踏まえ、2013年以降、国際シンポジウムを開催することになった。輝かしい実績を有する研究拠点として更なる発展の一步を踏み出し、世界と日本そして同志社大学の中で名譽ある地位を占めることをめざす。

グローバル化の進展は大学・研究機関、学術研究のあり方にも影響を及ぼしている。いち早く大学の国際化を進めてきた同志社大学もグローバル30に選ばれ、海外からの留学生等の受け入れに向け、教育研究体制の整備が進められてきた。学術研究をめぐる環境変化にどのように対応するかは人文科学研究所にとっても無関係ではない。同質の狭い世界の間人関係を前提にするのではなく、オープンな場を設定し、世界・日本との討論を通して研究を進める。研究者をめざす若い学徒が寄り集う場をつくり、その研鑽練磨の中で研究を活性化させる。同志社大学の中の人文科学研究所という存在に思いをいたし、今後のミッションを自覚する。グローバル30の大学の付置研究所として世界との関係で求められているのは、大学全体で進められる教育研究の一層の外国化に安易に迎合することではないだろう。人文科学研究所の専任教員はこれまで東アジアを視野に広義の日本研究を行ってきた。日本研究は本学で相応の位置づけを与えられてきたとはいえないが、これから出番である。大学のグローバル化と、東アジアを視野に入れた日本研究の両立が推進されるべきである。日本と東アジアの研究の更なる発展をめざすことがグローバル化を進める大学への貢献につながる。

これまでの人文科学研究所の歴史を踏まえ、新たに特色ある研究所づくりを目標とする。人文科学研究所の共同研究、専任教員の個人研究に依拠しつつ、日本を中心とした東アジアの近現代史、地域研究を全体のテーマに国際シンポジウムを開催する。

東アジアは日本の侵略・植民地支配・戦争に彩られた複雑な歴史を持ち、戦後は日本の植民地支配責任・戦争責任・戦後責任をめぐる対立するうえに、ここに来てにわかには領土問題が浮上し、抜き差しならない事態に直面している。一方、相互に密接な関係が築かれ、それぞれの国・地域の相互依存関係を抜きにしては現在も未来も成り立たなくなっている。アジアとの相互依存と連携をとる重要性は高まり、21世紀日本のとるべき方向について東アジア共同体構想も現実性を帯びてきた。シンポジウムはかかる現実と歴史を踏まえた、いわば、東アジアと日本に関する学術討議を組織するミニ国際学会である。学術的に経済や政治、社会を含む全体的な議論、さらにそれらを成り立たせている地域や歴史をさぐって、問題を根底から問い直すことが求められている。アカデミアとして人文科学研究所はその探求の場にふさわしい。

同志社大学人文科学研究所は、この国際学術シンポジウムを通じて新たな世界に飛躍する。国内外の多くの仲間がどう「知の殿堂」、とくに未来をになう若い仲間の活力がたぎる「アカデミズムの砦」を見据えつつ。

## プログラム

### ミッション高等教育史の可能性

日時:9月21日(土) 14:00~17:00

会場:同志社大学今出川キャンパス クラーク記念館クラーク・チャペル

#### 1. 東アジアにおけるミッション高等教育史研究の来歴と現在

陶飛亜 (上海大学)  
李省展 (恵泉女学園大学)  
司会:田中智子 (同志社大学)

日時:9月22日(日) 10:00~17:00

会場:同志社大学今出川キャンパス 良心館305番教室

#### 2. 越境する教育事業と「帝国」の時代 ―キリスト教界・公権力・地域勢力―

小檜山ルイ (東京女子大学)  
コメンテーター:水谷智 (同志社大学) / 駒込武 (京都大学)  
司会:長志珠絵 (神戸大学)

#### 3. 戦時同志社史再考 ―世界史・地域史のなかの連鎖構造―

駒込武 (京都大学)  
田中智子 (同志社大学)  
コメンテーター:寺崎昌男 (立教学院)  
司会:奈須恵子 (立教大学)

### 植民地主義のなかの帝国

日時:10月26日(土) 13:00~18:00

会場:同志社大学今出川キャンパス 良心館305番教室

#### 1. 基調講演

More questions about colonialism  
Frederick Cooper (New York University)  
司会:水谷智 (同志社大学)

#### 2. 植民地主義のなかの日本

「アジア的/民族的」、固有なコミュニズムから韓国的民主主義まで  
ファン・ホ・ドク (成均館大学校)

事実と規範のはざままで:帝国日本の法、言語、肉体  
キム・ハン (高麗大学校)

帝国のアンダーグラウンド:革命の法域と境界  
チェン・シン・ギ (聖公会大学校)

司会:富山一郎 (同志社大学)

#### 3. 総合討論

討議者:藤井たけし (成均館大学校) / 金友子 (立命館大学) / 永原陽子 (京都大学)  
司会:富山一郎 (同志社大学) / 板垣竜太 (同志社大学)

### 日本の「戦後史」と東アジア

日時:11月3日(日) 13:00~17:00

会場:同志社大学今出川キャンパス 明德館1番教室

#### 引揚者と戦後日本社会

安岡健一 (飯田市歴史研究所)

#### ヨイトマケの唄、ニコヨンの歌―戦後失対労働者の存在形態と社会意識―

杉本弘幸 (佛教大学)

#### 沖縄復帰前後の経済構想

櫻澤誠 (立命館大学)

#### 1980年代以降日本における中国系新移民について

宋伍強 (広東外語外貿大学)

司会:福家崇洋 (京都大学)

### 北に渡った言語学者・金壽卿(1918-2000)の再照明

日時:11月9日(土) 10:30~17:30

会場:同志社大学今出川キャンパス 明德館1番教室

#### 1. 北朝鮮の言語学・言語政策と金壽卿

北朝鮮の言語学史をどうみるか  
キム・ハ・ス (延世大学校)

国語学史の観点からみた金壽卿  
チェン・ボン (圓光大学校)

司会:コ・ヨンジン (同志社大学)

#### 2. 金壽卿の国際的照明

金壽卿の朝鮮語研究と日本  
コ・ヨンジン (同志社大学)  
板垣竜太 (同志社大学)

#### 旧ソ連の言語学と金壽卿

チュウ・ウイ・ソン (東京外国語大学)

#### 金壽卿と中国の朝鮮語学

チェ・ヒ・ス (青島濱海学院)

司会:ホン・ジョンウク (同志社大学)

#### 3. 特別講演「父・金壽卿」

キム・ヘ・ヨン (トロント大学)  
キム・テ・ソン (釜山大学校)

司会:板垣竜太 (同志社大学)

#### 総合討論

共催:同志社大学グローバル地域文化学部  
同志社コリア研究センター